

1 施策推進のための横断的な視点

将来都市像と五つの未来の姿の実現に向けて、社会の変化をデータ等の客観的な情報により把握し、各政策分野の施策推進に共通する四つの視点をもって、前期基本計画を推進していきます。

横断的な視点① 先端技術の積極的な活用による Society5.0 の実現

今後の市民生活や事業活動、地域社会は、大きく進歩した AI や IoT などの先端技術が、公共や民間が持つデータを核として駆動することにより、大きく変化していくことが見込まれています。

市民の利便性や生活の質の向上、新しい生活様式への対応、地域経済の活性化などに向けて、呉市ならではの特性と最先端の ICT などを融合させながら、積極的に活用する視点をもって施策を推進していきます。

横断的な視点② 少子化と人口減少への対応

呉市の人口は、昭和 50 年（1975 年）をピークに減少が進んでおり、若年層の転出超過や未婚化・晩婚化による出生数の減少が大きく影響しています。

子育て世代を始めとする若い世代が住みたい、住み続けたいと思えるまちづくりを進める視点をもって施策を推進していきます。

横断的な視点③ 様々な危機への対応と将来のリスクへの備え

呉市は、甚大な被害を受けた平成 30 年 7 月豪雨災害について、「呉市復興計画」に基づく着実な復旧・復興を進めています。そうした中であって、新型コロナウイルス感染症の拡大、日本製鉄株式会社瀬戸内製鉄所呉地区の休止発表によって、市民生活や地域経済に大きな影響を及ぼす状況も生じています。

これらに柔軟かつ迅速に対応するとともに、今後のリスクに備えていく視点をもって施策を推進していきます。

横断的な視点④ 市民や企業、高等教育機関など多様な主体との取組の推進

基本構想に掲げる将来都市像と五つの未来の姿の実現には、市民や企業、高等教育機関など多様な主体との連携が必要になります。

これらの多様な主体が持つ強みや特性を生かし、共に取り組む視点をもって施策を推進していきます。

なお、「2 基本政策」に記載する施策や主な取組のうち、他の政策分野に関連するものについては、その推進に際して分野間で連携し、取り組んでいきます（例：「地域包括ケアシステムの推進」と「まちづくりの担い手の確保」、「高齢者の生きがいづくり」と「生涯スポーツの推進」など）。